



語林類聚卷之十三

清水濱臣輯

ぬの部

二言

ぬ

散本集注今本散本無け家

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

注ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

同七巻上 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

○ 今料野家ニイフ ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

又々同義ナリ

夫本廿七文安百三 待賢門院安藤

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部 ぬの部

鶴

盛衰記十六頭ハ猿背ハ布屋ハ狐足ハ狸音鶴也。○平家物語

○東鑑世三十二

前武列御廐侍鶴鳴、依鶴怪暴於前武列公文所被行百怪祭。

女の某<sup>十二</sup>

万五長哥

○増鏡月草の花内大臣殿ハ清子の別當通人

小

中巻 別當ハ道の法師の可憐な物語

ぬ 髪白粉をうすくを別とて浴よる可憐な物語

後衣四中<sup>十二</sup> 法師の可憐な物語

ぬ 法師の可憐な物語

三言

抜<sup>テ</sup>手

今昔世三 相撲ノ節有ケル而ルニ抜手ノ日。

ぬいすむ 盗

始送

ぬいすむの多門をいふなり。東方信録云白浪の多門

のらとあましとぬいすむ人母うらとぬいすむ也

鏡初花戯嘆 後系義孝

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

同 ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

同 ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

二系不后系大武集

同の沖しぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

全二系下

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

○竹取のや姫の母を人母うらの名にす。○宇治保田塚上

小

今本ナカ

の院上 けに壽殿の母を人母うらの名にす。○枕冊

子 四十一

いみしぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

信がヲホノテ先

○宇治保田

ぬいすむ

二系難上題志了次

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

持送意一 実房

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

同意二

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

○はろ端鏡のちやうけぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

ぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ人母うらとぬいすむ

○

ぬいづ

崇元 月寧 廿五

〇枕舟子 廿七

〇ちや

〇

ゆき

今昔 廿七 廿 密と板 是に登テ 〇

ぬいづ 布引。今俗手 拭引ナト云 戯 子班云

小

紀畧七年八月九日於綾綺殿相撲五番布引。

同長元六年八月六日已亥関白元太臣家右相

撲人等給饌並根物古子色草有布引五番。

〇手起

〇手起

ぬいづ

小嶋口寺 道七 ありぬり月につづき。〇神業日記

衆徒 神人一ニ万人も 布引のゆきありゆき。〇太

平記 廿三 聖廟 所縁日ニテ 参詣ノ 貴賤ヌノ

ヒキナルカ。

ぬきす、免塗筆

江次第抄一云塗筆殿殿西庇也。拾遺雜意<sub>上</sub>  
由<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>免<sub>ト</sub>筆<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。

免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。

ぬきす、免塗筆

林茶二  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
拾遺世八

免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。

免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。  
久安百音 小大進  
免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。免<sub>ト</sub>玉<sub>ト</sub>。

○

ゆきうぬ

古今雜劇

指迷雜劇

大和物語

拾遺雜劇

後撰

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

古今雜劇

指迷雜劇

大和物語

拾遺雜劇

後撰

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

古今雜劇

指迷雜劇

大和物語

拾遺雜劇

後撰

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

古今雜劇

指迷雜劇

大和物語

拾遺雜劇

後撰

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

古今雜劇

指迷雜劇

大和物語

拾遺雜劇

後撰

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

古今雜劇

指迷雜劇

大和物語

拾遺雜劇

後撰

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

六帖

伊物

後撰雜三

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

後撰雜三

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

後撰雜三

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

後撰雜三

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

後撰雜三

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

後撰雜三

同前上

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

又さうして日頃申す事ありてふ一歌ありて  
うらむとすれ境いさめきく衣をくせし又きくとい  
て娘をきいみりく是くして山名ありてといぬ  
衣ふくはるの百人一首改観抄 天の香久  
山の注

ぬきこもえ

拾玉 正りぬらぬ鳥色ぬきこも 斬のあやきの名をいひ

○

五言

ぬきこもえ

源柳 幸くうれ清くはとぬきこもえ ○

ぬのふらむ

後拾遺美上 ぬの衣きく 法師 ○

ぬきこもえ

又木十四 西行 44 浄くはるぬきこもえ ○

○





シタ子  
シラ子  
碓子  
タラ子  
アサ子  
ワラ子

沁の部

一言

沁音の取情ノ物ニイヘル鐘ノ音ハサラニ

五代秋下 実方  
秋乃〜の〜を〜し〜も〜衣〜門〜母〜を〜

某子

支本七六

志沁〜形〜れ〜を〜吹〜風〜を〜し〜や〜事〜も〜な〜れ〜本〜の〜  
 散本経信々〜〜〜〜〜  
 支本七六 益鐘  
 志沁〜形〜れ〜を〜吹〜風〜を〜し〜や〜事〜も〜な〜れ〜本〜の〜  
 同日 後京極  
 由〜事〜〜風〜〜し〜〜事〜〜事〜の〜〜を〜〜し〜〜地〜〜

曾丹集

も子衣し色てえし多れ松ていそめて  
又木世六 殷富門院六輔

夕涼のあはれ 府の明くまもあれくまの秋のまよ

○源空禪とていそ松しそ○回神もそ松をい

日あつてあはれまよあつてあつて○後拾遺雜一村上

の浄時くくのそくくくくくくくくくくくくくくく

えゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

かきききききききききききききききききききき

○家集の源達生とて松のまよの枕冊子 初版 鳥の松

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

シタ

シラ

丸

木

某根

新古夜一 師後

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

散木 経信卿つくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

存里十師集

秋の野れむむむむむむむむむむむむむむむむ

後拾遺回

古今大歌可

字あはまいあけしうれせぬ柳葉のまよさあつて神のう松か



寛平御記小石記 河海花鳥季注 ○今昔廿八世 猫

恐ノ大夫灰毛班十ル 猫

夫本七七猫御集 花山院 此伊哥ハ三条の大皇太后多ク 猫ヤ多クハ一ツ人ノモ

○此伊哥ハ三条の大皇太后多ク 猫ヤ多クハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ

源三 年三

源三 年三 忽脱諸難等獲殊勝福利 年三八正五九月月六

年三 月六 星

ハ六奇也の後撰世 祇々 女禪越の

百一 祇々ハ八トモモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ

○一説年星也 本命屬星見拾芥抄下○今昔廿  
高尾寺ノ麓ノ居テ年三ニ奇戒ヲ行

フニ

祇

又ハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ  
トハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモトハ一ツ人ノモ

子シニ  
寤死

東鑑 四十六 八丁

○愚官抄六六の曉付内六日中夜死に頓死をり

良通 ○同三月七日やうも似く寤死母をり

今昔七<sup>四十</sup>二<sup>四十</sup> 其夜ノ宿ニシテ寤死ニケリ

○同日四〇

汝以里 寤摺

高陽院<sup>合</sup> 旅人の汝以里の衣をり押ひりて死をり

○余杖意しりて死をり注 古今の世の汝以里をり

抄に寤摺をりて死をり但し高陽院の根

柙母あり汝以里の衣をり

高陽院をりて死をり

高陽院の衣をり

後拾遺

汝以里

字鏡

○竹取

イキトニテラント ○土佐日記

○源



○契云コレハ十九夜ト心得ラレタリ誤ナリ

<sup>六帖</sup>ヲ云ふも、<sup>六帖</sup>ハ十九夜ト心得ラレタリ誤ナリ

○契云十八日ヲ居待トイヒテ廿日ノ寐待トノ間ナ

レハ十九日ヲオキフシ待トハイフヘシ○

鏡古羅上後島明院何カハ一何リヤ何シイ

の事ナリヤ何カハ一何リヤ何シイ

免おろしき色なきは義仁法親王

何も一は、<sup>六帖</sup>ハ十九夜ト心得ラレタリ誤ナリ

○為名百首寐待月哥 可考 ○

詠み、<sup>六帖</sup>ハ十九夜ト心得ラレタリ誤ナリ

之の係、<sup>六帖</sup>ハ十九夜ト心得ラレタリ誤ナリ

形 ○

根物 可考

紀畧長元六年八月六日巳克園白虎不日家石  
相撲人等給饌並根物右左草 有布引五番○

詠也

現六玉子、<sup>六帖</sup>ハ十九夜ト心得ラレタリ誤ナリ



散木 山中郭公  
あしきしおの。秋や梅のまひ。〜

○注福やす。一夜山井宿して木をさく。〜

梅のまひ。〜

十返之草

林茶二  
ほろほろにわが秋のまひをさく。〜

同四  
〜

拾玉七  
〜

千秋下 公経  
〜

支木三家集 経信  
〜

花鳥井集 園子規  
〜

新戸町の秋  
〜

支木四

秋のまひ 練麻五

拾遺意三  
〜

後拾遺四 義寿  
〜

百代考上 柱根 権信  
〜

梅指 権信  
〜

同五二  
〜

新六  
〜

支木世一  
〜

四言

法不立身

法不立身

○ 止寂下平五 法のくりに法かともき多ふに  
破舟のくりに法かともき多ふに

法不立身 寐真

○ 全在 下 身全在のくりに法かともき多ふに  
人と法くこし

而快心

今昔廿七五 而快心 急ト思ヲ敬馬クマ、ニ ○

法不立身 鼠鳴

○ 枕舟子くりにのくりに法かともき多ふに  
今拍法け男ふとふのくりに法かともき多ふに  
解をのくりに法かともき多ふに ○ 今昔廿九三 鼠鳴ヲシテ手ヲ

指出テ招ケルハ

○ 林兼集 見後手意  
法不立身見後手意のくりに法かともき多ふに  
思之車

詠つゝ

根強

○  
又本七一  
此後  
 文木世一  
 〇

詠とある 根強

左様 詠二小式の内  
根強 子ハ  
 〇 枕冊子 〇 詠 〇

詠風 〇 根 〇

公任集  
 〇

詠とある 根強

年号 〇  
 枕冊子 〇

持統紀 朱鳥 〇 尚齒會序 〇

の 〇  
 〇  
 〇  
 〇

葉集序 〇

〇

流んぬし 無念

本願抄 行方足らぬしぬぬ流んぬしとありさしあ  
あゝ海に母〇

流んぬし練柿 熟しきん季吟。契云俗云大流し柿の歌  
拾遺物語 流し柿の歌 流し柿の歌  
あゝ海に母〇

流んぬし

字部保苑用 流んぬしを錦を入る袋母ぬきつ〇  
同日了母ハ流んぬし手ぬか 一具流んぬし 今更ききし  
あゝ海に母〇

流んぬし

盛衰記十五巻よりノ大カノ三尺五寸アールニ  
練りハ入テ〇

五言

流んぬしハ

続古羅工 西行  
秋かゝい花のもくもくささくぬんたけけけのさう月か

拾玉二  
海つりくいささくみあまみくぬくくささくせんまあきり

同 同 廿四

新古今 卷四

○隆信集 後成々長乎 秋のくくり蓮の池母くくあえ

いゝおのさしをさくく

流ぬくくく 無根草

実方集 田支  
多門母あ 流すの流すあさくくあさくくあさくくあさくく

史本

流ぬくくく

久安玉音

六帖流ぬくく

千載中

あはさくぬくくむらのあきの流ぬくくさ何あさくくさあさくくあさくく

○朗流無常離根草

六言

流くくく

拾遺表 人丸  
日きもくく流くくくさ髪をけくくく流の玉もくくくあさくく

流くくく  
流くくく  
流くくく

大和回

丈夫廿二野

是の如く風をたれぬ野に女をばねてはなれぬ

○ 袷衣ニ上 赤くけしき 袷衣ニ上 赤くけしき

袷衣ニ上

袷衣ニ上 赤くけしき 袷衣ニ上 赤くけしき

のれ新

一言

の幅

振百蘭 正席

女もうけしき 女もうけしき 女もうけしき

○ 読詞花 聯寺 法性寺 入道前 右政大臣の宗持と

甲てしき 乙てしき 源後重

甲てしき 乙てしき 源後重

○ 後れ口信 日

振百蘭 隆保

女もうけしき 女もうけしき 女もうけしき

調を林

金葉林  
あはれも人もききとや為替秋の野にの庭の多のうん

まのあまのふれもあひま

野集

百十  
全風くらの野あふふちりし志の雪のちあろくしと意の  
清懐不集  
ほむむすし野あふふちりし志の花の野あふふちりしと意の

○ 堀百長 介 野あふふちりし風の小○

某の きてりし初

百十八  
志のさうさうのえれしきしと意の雪のちあろくしと意の  
あはれ

○ 畧解云崇詞也○

二言

の 退

金羅下 用防川侍  
あはれも人もききとや為替秋の野にの庭の多のうん

○ 堀百長 哥 後頼

新古今秋寂道  
あはれも人もききとや為替秋の野にの庭の多のうん  
金葉上 後頼  
あはれも人もききとや為替秋の野にの庭の多のうん  
玉羅三 実宗  
あはれも人もききとや為替秋の野にの庭の多のうん  
あはれも人もききとや為替秋の野にの庭の多のうん  
あはれも人もききとや為替秋の野にの庭の多のうん







もくけい... 〇

三言

野うま

後撰雜四... 野うま... 〇

同離別

の... 宛見也

又亦十一... 浮付個

... 〇

〇紫口記

野太刀

金葉雜上... 〇

東鑑四十二十七

野袴

野ふど

拾遺

某の海

今昔七世八... 大宮... 〇

法ノ海  
法ノ門  
法ノマコ

法の某

法の海方類海。法の門 同上

○ 法ノ海ノ神ハ...

のろむ咒咀

○ 法ノ月寧ノ後ハ...

○ 法ノ...

四言

野心

○ 文家鷹 三百首

○ 春の...

野宿

○ 林業六道...

○ えけり...

ルニ

のろむ

都土産 今いさぬのやまかてて○今初孫後産  
聖の尾のふさるしを解きよの源達生らく  
しきのやまぬきし。

の志里 乘尾

今初孫 春の語 の志里のさしふらてて○同  
参使 みり志りさしそくしつ馬尾太と志りて西  
みり志り○江次藤 春の参抄云上卿相具神馬十  
列 謂 乘 〇  
尾 也

の里

志里のふさるしを解きよの源達生らく  
しきのやまぬきし。

五言

残哥

可代意一延喜十三年亭子院哥合の残哥  
○同意二同 ○同二同 ○同夷同 ○

の志里

宇都保 花園 御是ハ...

のふまゝ 未詳

宗礼 衣珠 くら くら 御の赤...

のふまゝ

水鏡序 百寿のあら...

作らば 支徳...

のちれら

宇都保 峯の月...

のちれら 胞衣の後産

宇都保 月真のち...

のちの...

寛治六年十一月廿二日 内府命云...

事未成之前称不楨

のしかり

袂衣一ノ下ニ ナニ ぬい と と みか る る い さ し い の と

ウツホヒナキサマ也 ○常盤燧

物語取代 涌る る い ん あ る さ し ら わ く の し が

い や あ じ あ ら る い の ○

のむあ

今昔廿四五丁 喜テ 事々シク 延騰 たり 中 ケ レ

ハ〇

のふれけし 初袈裟

和名抄云 玄装三藏表云 初袈裟一領 俗云能不一

○和名抄印本無初 字思本有 文今神 ○ 空花音樂 のふのけし ハ

い ら ふ し ら い の け し の け し の け し の け し

さ き ま の 回 衣 珠 し ら の け し

ら の け し の け し の け し の け し の け し

のふれけし 兼越

百代雜 = 右邊智基氏  
風... 泥の... 波の... 浪の... きて... 鳴る

○

六言

のかけ詞

源東屋 六の侍のかけ詞

のまね道

源も智 あり... の... 波... 浪... 鳴る

のまね道

定海保 雁開 又あり... の... 波... 浪... 鳴る

人。

七言

のまね道

古く難上 七言人不知

後撰 意四とし人止知... の... 波... 浪... 鳴る

同 意三... の... 波... 浪... 鳴る

の能同 意枕之 野中の 波ありしとよ 奏をりしと





袂衣四

詞花意下

十二集下

山家集下廿六

のこころは

二集下武集

よかき色原すゝめしき花のうらみは

侍集

ゆきよき花のうらみは

のこころはきみ 法皇

佛足石哥

○十載序 月持の

よきよき色原すゝめしき花のうらみは

ゆきよき花のうらみは

語林類聚卷之十四

清水濱臣輯

波行

その部

二言

某下

古今

拾遺

拾遺

拾遺

拾遺

拾遺

拾遺

拾遺

○

そ

玉勝問十二尿 師のそふにとりよ 年ハ古ハ志〜  
 人ハ糞を留めて ころを捨り〜 知〜 何〜  
 〇今昔世 一系 カリ微缺ク可嘆ク 氏管ニ為  
 入ラム物ハ我等ト同様ニコソ有ラメ 中 畧  
 管洗ヒニ行カムヲ同ト管ヲ奪取テ中畧  
 其管ヲ見レハ 琴添ヲ塗タリ〇今物語或説  
 經何の云云〜の〜 〇今物語或説  
 蠅〜云云の塗地 何〜母〜と 志ろ〜  
 名坐臥具清器 師乃トアルヲ畧セル也  
 波古

枕箱  
 小箱  
 覽箱

某箱

拾遺雜爨 爨の 爨に〜 爨を〜  
 〇伊勢集小箱合五〇 拾遺雜ニ 〇 〇  
 人のうき〜 〇 〇 〇  
 〇東鑑世五七一 持参 日取勘文 八覧 〇  
 〇同 四十二  
 持参 古書 〇 〇

そし著

拾遺雜春 松をそし是多し物を出しゆるり人の大ね  
物種もふち梅のどれさうのゆきをそしる。

そし 何そしそふゆき

志のそし上母そしそふゆき

そふ

新撰六帖 かくはつゆき

そふゆきみゆきそふゆき

○

今そし

そふゆき

そし

新古秋上具平新王 今そしゆき

ゆき

もーの同同基後 今そしゆき

そふニ 考ゆき

そふゆきゆきゆきゆき

○

そし 機○羅 天武紀

六帖

そふゆきゆきゆきゆきゆき

そふ四三 平祐家集

そふゆきゆきゆきゆきゆき

カスハク  
ススヒハク  
キリハク  
シツハク



ふん 審

竹取のやりのうたにあらはれしは

三言

異平拾玉 柏子

のりてはるるのうたにあらはれしは

えが 劔の佩のまゝ

紫花月宴のうたにあらはれしは

あゝのうたにあらはれしは

物鏡のうたにあらはれしは

まがのうたにあらはれしは

○河皇女 三条院皇女仲母中宮嫡 長和二年癸丑七

月十六日降誕即日被奉劔是其例也

○増鏡 あいの川 初めはるる

のうたにあらはれしは

奴一  
布一  
大口一  
カク一  
スル一  
ト一  
ハ一  
アコ一  
ホ将一  
裾渡一  
カク一

其の語

和名掛奴袴揚氏漢語掛云一  
佐師奴初乃波

云縮袴袴或云岐  
翼万漢語掛一

奴乃加利八加萬  
同布袴同大口袴  
○金葉

連言切も河を  
信洞  
○袖中十五十七  
司公任

あふにをさるる  
○拾遺雜名  
用ハ

使母さるる  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

をさるる  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

○小大集詞書可考合  
○袂衣一下  
二四十一  
印

さるる  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

か  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

さるる  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

あふにをさるる  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

の物さるる  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

二青黒ノ赤袴袴ヲ着テ  
○同五六十八  
裾渡ノ袴

着タル男赤卧タリ

又本三 行基 菩薩  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

又本三  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

又本三  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

又本三  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

又本三  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

又本三  
ハ  
東言  
世  
人  
在  
也

油中抄

〜

〜

〜

〜

印下  
吹上

〜

〇油中一

〜

〜

〜

隆信集 意四

〜

〜

〇後回ナルシ

〜

ハハフハ字ナリ 某シキナリ  
イッカハシキノイリカハシキノニキハシキ  
カタバヤヌキ多却のサハクミテ

西要抄云



本願をえりてらんはる事と名ひあつて○

そと 新 和名波之々

堤中初まきつた非天

肩ハ一もいも一もいも一もいも一もいも

えくろしをうものむけしあかん○和名龍波如

毀齒也

そと

和名抄竹器類龍唐鼓云籠  
竹器也

和名古俗用旅籠  
波古古今様  
所出未詳  
二字云

藤人のうまは物初まきつた非天  
○和名抄竹器類龍唐鼓云籠  
口日一和名まろく物  
旅籠ヲ長ク付テ○

そと 層足ノ物

字取保 籠籠 まんむきりひてまきつた

志しやまろく殿上中々まきつた

○平家物語十二大世見寺より六波羅より

今云廿ツマタノ歌カ。福麻ナトヲフテカケ

拾玉四  
又亦九七同

又亦九  
又亦九

同世五海人永集五年十月後醍醐朝片宗宗合

又亦九  
又亦九

又亦九  
又亦九

又亦九  
又亦九

又亦九  
又亦九

又亦九

又亦九  
又亦九

又亦九  
又亦九

又亦九  
又亦九

又亦九  
又亦九

又亦九

そと

後撰巻上

姉妹のそとにふくまへる青柳のしやわぬらん雪の勢

振百 乳母 葉の宿のそとりの庭のわやう大のりくをさふまの夕暮

○

そと 人下對シイテ又文ナトノ文ナラテ侍ルトイハル樹

竹取物語 あらうゆけのやわぬとつげのり ○ 葉花 花山十

しとやえと ○ 同 世 えうき けりぬ ○ 止

路露序 あゆとた ○ 筆 の ○ 良 母音 ○ 新

そと ○ 葉花 を ○ 世 けりぬ ○ 良 けりぬ

乳母 ○ 同 玉巻 尾 ○ 同 世

尾 ○ 人 ○ 毛 ○ 尾 ○ 尾 ○ 尾

う ○ 葉花 初 世

そと 流新

茶香のそと ○ 世 ○ 世 ○ 世 ○ 世 ○ 世

物と ○ 世 ○ 世 ○ 世 ○ 世 ○ 世

そと

振百 葉花

秋風 ○ 世 ○ 世 ○ 世 ○ 世 ○ 世

史本 殷富門院大輝  
芳 〇

田言

そり〜そ 配

源氏 くんや〜母の〜を〜してあか〜  
その表紙 紫煙 のら〜〇

〜多免 齒固

源部子 〇

〜せ〜

〜かゆ〜 著稿

拾遺雜賀 冷泉院の 〇  
同日 天曆所時内裏 〇  
〇後拾賀人の 〇  
〇後拾賀人の 〇  
〇後拾賀人の 〇  
〇後拾賀人の 〇  
〇後拾賀人の 〇



〜〜〜 端書

山家集上

玉の〜〜〜

又本五

○後淳和 端書に多し。その里人の字、初孫、國直

文初 あり。〜〜〜

三〇

〜〜〜 橋殿

思後腰樂 あり。〜〜〜 行幸有。今昔十九。早清水

ノ橋殿ニシテ。○大和物語。〜〜〜 子り志賀。日。〜

〜〜〜 中里。〜〜〜 あり。〜〜〜 〇縣居云

〜〜〜 山谷。〜〜〜 橋の。〜〜〜 あり。〜〜〜

〜〜〜 廊。〜〜〜 あり。〜〜〜 〇拾玉。四。地名。〜

〜〜〜 〇枕冊子。〜〜〜 あり。〜〜〜

又本七 橋 有 家

〜〜〜 〇ハシケフ子ト後世ニイフ物人

射性集

秋風山 あり。〜〜〜 あり。〜〜〜 あり。〜〜〜

和名抄 〇字鏡

又本七三

玉衣一層少細を  
毎々吹とす河海を渡る久しとありて

○嚴嶋詣記 舟

古事談ニ

大炊所門面ニハハク板ヲ立テ穴ヲアケ

タル所アリ○源蓬生河海

○延喜太神宮式ウセ六波太板十三枚

○愚管抄五義朝ハ又六波羅の板の

と云うけあり

源若菜 膚狀

源若菜 下 汚き けり

源若菜

源若菜

○河 搔拂 〇巴 搔拂

〇

袖中抄十二世

くさぬ馬をいりてい

ヤシノハシノ統詞花雜上修程朝臣のふみり家  
母山家眺望しりふふと夏系回座

山家の那むのち浦もふくろくもり甲子多志いむつ  
教本  
のふくろくもり甲子多志いむつ  
まふせ七冠

八朔

和訓栞考のむろ条委注。玉勝回康富記文安  
五年八月一日云云八朔礼事何頃ヨリ有之事

哉之由尋申候如後鳥羽院未方ヨリ出来欵但  
不得所見慥所詮先代ヨリ沙汰初欵録倉ヨリ  
事起之由所語得也清家之記嘉元之頃之記  
此事見之近年如此之由注付云云。

そののせ 琴終結

千離中 二条を望 大后ま武都  
今いそぐも 外に 筆のまはりのん ちんちん ちんちん

そふふ急 皇屯



袷衣一上

○源

○今昔廿八<sub>世</sub> 音ハ鼻音ニテ高カリケリ物云ハ  
一内響音テソ開エケル。

これ<sub>中</sub>。鼻高。今自便<sub>法</sub>と<sub>鼻</sub>の<sub>音</sub>。

袷衣一上<sub>世</sub> せん<sub>い</sub> まら<sub>る</sub> ふ<sub>る</sub>。

せんあ<sub>ん</sub>。

これ<sub>一</sub> 勘當<sub>ト云ニ近シ</sub>

字如<sub>法</sub> 小<sub>い</sub> 子<sub>の</sub> 人<sub>の</sub>。

これ<sub>一</sub> 多<sub>毛</sub> ぬ<sub>ぬ</sub>。袋<sub>巾子</sub> 物<sub>定</sub>云<sub>清</sub> 補<sub>今</sub> 夜<sub>不</sub> 致<sub>和</sub>  
和哥沙<sub>活</sub>ト思<sub>フ</sub> 致<sub>ト云</sub> 小<sub>い</sub> 突<sub>鼻</sub> 氣<sub>也</sub>。

此<sub>一</sub> 甚<sub>多</sub> 毛<sub>ぬ</sub> ぬ<sub>ぬ</sub>。○土佐<sub>日記</sub> 風<sub>雲</sub> の<sub>り</sub>  
あ<sub>い</sub> の<sub>り</sub> 女<sub>の</sub> 名<sub>を</sub> 言<sub>ふ</sub>。○源<sub>氏</sub> 女<sub>の</sub> 名<sub>を</sub> 言<sub>ふ</sub>。  
あ<sub>い</sub> の<sub>り</sub> 女<sub>の</sub> 名<sub>を</sub> 言<sub>ふ</sub>。○大<sub>院</sub> 三<sub>女</sub> 名<sub>を</sub> 言<sub>ふ</sub>。  
あ<sub>い</sub> の<sub>り</sub> 女<sub>の</sub> 名<sub>を</sub> 言<sub>ふ</sub>。○

と<sub>一</sub> 散<sub>花</sub> の<sub>花</sub>。

雲井のみり 今りか大将及され即とまてん  
くまきし金根の花を 其介候も即二三百枚  
もふとまてん 其の候も即又ま  
の母もまてん 昔より今の花即とまてん  
こゝれも昔應ある浪の御入候は  
何し庭式あるも即とまてん馬車  
何しとまてん 中女津候と  
何しとまてん 一統の候も  
何しとまてん 白紙とまてん 二つひもみ  
何しとまてん 月をちとまてん 候とまてん

公任集

毛野の鶴もまてん 知もて 梅もあ  
コバタ、花  
葉ノえたり

保富集

小秋の鳥も 梅も 音も 春風も 解も

今物類十九版 下篇

せえいれ

〜志乃母代

後衣一下七〇 浣衣二五八 〇 菜志 〇

〜 自々。旬旬。轉〜 〇 此女〜 〇 顯輔集

〜 此女〜 〇 顯輔集

〜 華女〜 〇 顯輔集

〜 〇 〇

〜 〇 〇

〜 〇 〇

〜 〇 〇

○唐物語

〜

又木六倍北家集

〇 散木 家圃 〇 〇

〇 〇

〇 〇

〜 演面

指送雜歌 〇 〇

〇

と海の中。

つゝ草<sup>七十一</sup> 唐人書葉の半に似せし廳のうら  
つゝ大理の座のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
七月七日大夏清く一に<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
東抄後のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
つゝ<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
字鏡格<sup>波方申力</sup>の類聚雜要二所帳云依相尋子細  
以床平三年例三基寸法住渡了在冬渡床一

基南殿料也。○字初保 着系君

えんしり半尻

鏡世鏡花ちり母のあて えんしり<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>

えんしり

源白<sup>三</sup> えんしり<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
うら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
くらの物<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
増鏡<sup>射版</sup> 弓<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>  
清本<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>のうら<sup>上</sup>のうら<sup>下</sup>

アマンハシカラ  
ニタノニナカラ

統世純  
○○○

○

早稻

早稻根合

○拾遺愚草上冊三

長明集 公

後拾遺原

日

長明集

○

袖中六九袖

後拾遺ニ

長明集

○○○



うゝま

○ 阿保を流すまゝのうゝまのさへての鉄刀箱也

うゝま 橋匠

拾遺二 せんくせんく  
玉籙二 二年院讃  
○ 阿保を流すまゝのうゝまのさへての鉄刀箱也

うゝま

うゝま 橋匠 十五

うゝま 橋匠

○ 源氏凡帳 舟 枕舟子  
○ 同世五 郭公也  
中畧 舟花を搦舟のや

十雜一 江待候  
○ 源氏 下巻  
梅

続詞戯味同

○演書四几帳母〜〜〜れ〜〜〜みふとの

〜〜〜

清酒集 静蓮入道 昔男母ふれ〜〜〜んか

〜〜〜、年〜〜〜、ま〜〜〜、と〜〜〜、〜〜〜世〜〜

つ〜〜人のため〜〜あ〜〜ぬ〜〜の〜〜〜し〜〜〜れ〜〜の澄信

集下四十一

え〜〜の杖

尚書會記 え〜〜杖に〜〜〜の増鏡あり  
 塩の杖を〜〜〜白金母〜〜〜うらに〜〜〜  
 を〜〜の塩を〜〜急〜〜の

え〜〜

〜〜〜

所語拾遺一巻 安の師れふ人も一度〜〜〜い

〜〜〜の同一〜〜見らる〜〜も一度〜〜〜い

〜〜〜の鹽表紙廿六二十三人カ音シテ

拍子ヲトリ喚呼ハト笑ト、笑ナトシケリ

同四十三敵ヲ御方モハツト笑フ



花つゝら

保憲女集

万葉歌中 基後

昔の女も

百代意五兵劫の親王元良

高貴女御集

○後拾遺四

上の女三

と心ふ

は

は

は

は

は

は

百代春下

花つゝら

源昌中 花つゝら

花つゝら

続詞花誰上 二条大后

玉の

玉の

玉の

○<sup>綴ヲヨ</sup>セタリ ○盛衰記ニ歌ヨシ連哥シ繪書花結

アリマテ所心情オハシマス○

らん歌句 半臂ノ句也哥ノヌカタノタトナリ

長明無名集上

そつみ

空穂

○思終 ちりや梅

ついでにそつみとつみとちりや梅日記ふふふとついでにそつみとつみとちりや梅日記ふふふとついでにそつみとつみとちりや梅日記ふふふと

○

ちりや梅 針耳

常盤廻物語

永正の  
作

ちりや梅 針耳

の年もしりや梅の宝物集の字跡原

ちりや梅の宝物集の字跡原

古今雜下

ちりや梅の宝物集の字跡原

ちりや梅の宝物集の字跡原

ちりや梅

カ、ヤカシキト云ニ述シ

大鏡ニ堀川院ニ  
花山  
廿七

六言

河海 故嶋賦

字部不長志  
識の題  
猶如舟の  
進士母  
思の堂  
ほす女  
つれぬ舟  
の

細放嶋の  
他文  
中  
嶋の人  
詩を  
人

ほす女

ほす女

ほす女

三ノ白玉  
如環魚  
端と云古  
鏡を  
ほす女

○

〜 かつき

源頼朝のころにわかれぬあつたこと。○同 群分 頼朝  
 こそしはくわんくわん ひとごとし ぐんぶん 同 頼朝  
 頼朝のころにわかれぬあつたこと。○  
 同 群分 頼朝

〜 せがれ

隆信集 みさき 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○

隆信集のころにわかれぬあつたこと。○  
 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○  
 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○  
 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○  
 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○  
 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○  
 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○  
 隆信集のころにわかれぬあつたこと。○

〜 隆信集

指秋 雲文  
神の神にまゝもゝのまゝをいふまゝのまゝ

○

### 八丈結

玉勝回十二神凡世に諸國の所尉とて左神宮にまゝ  
おやまの八丈結盛足としふと多くいへしこれ  
八丈結といふの國々もてりし神宮のありぬるまゝの  
神といふもむしけ結を織ちしとて神の名をもい  
ふしとていふてとせまらぬといふもいふは彼結と  
織ちぬありていふといふとぬくといふもいふは  
いふとていふとていふといふといふといふ

さもあしんのあふた今の八丈といふ別々の八丈と  
てもあしんはそいふれいふもいふ八丈といふ嶋の名は  
いふ八丈結といふといふ。○度訓往來卯月十  
尾張八丈。新様樂記美濃八丈。宇治拾遺三  
八丈といふもいふといふといふといふといふといふ  
○今昔世系 一畧ニハ綾世足一畧ニハハ丈結世系一畧  
ニハ例ノ結五十足。○同世六十八 美濃八丈十足。

いふといふて 嘆といふといふ

源花事その人々いふはくしうらな鼻をらめ。ふ

うらし○

花ゆき人

公任集

日暮る名いもゆき人いふそそ多一扱をうらゆん

和泉武部集

同 公任和泉贈春十り○

そぬのくしけ 花櫛笥

伊勢集 九奈のまふちやけいふの津をふし第合の

いふまゆ知梅のつるしうらゆきゆきゆき

花のくしけ 花のくしけ 花のくしけ

西行

あふゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

○まふニ上の大えんちゆきゆきのゆきゆきゆきゆき

平秋岑

○花のゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

六帖

花のゆきゆき

於道秋 花

あふゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

○

うらみのしるし

後撰考下 いろは

学花根合

風あけと 物しるし

玉系賀 七羽弁

○

うらむしるし

永正五年正月二日 狂哥合判詞 花部

吐れり ○

うらむしるし 鼻月動

源少女 志しるし

ささり川 〇 河 俗に月動し鼻 志しるし

うらむしるし 春隣

古今

うらむしるし 春の隣り ちかりん

拾遺歌 枕 三 統元 賀

○

そきうゆ

中務日記 ちんりゆ

七言

そけいそきん 白水練

このふれかき ちんりゆせん ちんりゆの風情

ちんりゆの太平記 大渡山 峰合戦 此同鼻水練

ちんりゆのちんりゆのちんりゆのちんりゆのちんりゆ

豫人よせり。

そけいゆ

長明無名上 是ハゆのちんりゆの鼻水練

く。袋巾子油壺ノ上ニハナマアラヒリ所也。

そけいゆ ちんりゆ 比翼

そけいゆのちんりゆのちんりゆのちんりゆのちんりゆのちんりゆ

そけいゆの尻



つゝ同答詩... のあゆ... 七八十... 連家  
 所も... のタスノスサセ云按摩... の紫花  
 布引お... の... あり... あり...  
 の... あり... あり...  
 ...

九言

...の...  
 ...

朗詠首 箕白后 湯麴頭 竹葉經 春熟階 底蕃徹 入箕用 〇源柳

〇堤中納言物語

あし 垣のえぬ  
 堤中納言帖

中納言...  
 ...

...の...  
 ...

〇新撰六帖

...の...  
 ...

...の...  
 ...



のこしつゝ 文任者

其櫃

和名韓櫃 カラヒツツの竹取

今物語五段 火の川の中へ

の葉花 世五 の若園十一画

和櫃 俗有長櫃韓櫃折櫃小櫃

今昔七十四大ナル鞍櫃ノ様ナル物ノ有ケ

ルカ人モ不寄スニコロクト鳴テ蓋ノ門

ケレハハの原宿木

韓櫃  
火  
折  
長  
靴  
小  
み  
書  
三丈  
透唐

之門ありしけり入て和名書櫃 白氏文集

云破柏作書櫃 和名布美 の増鏡

入のり小唐櫃 の拾芥上世九吉備大臣三丈櫃

落る原二十大ナリ

〇

人某

志の心は上人を

人まきり

人あれ

人  
人  
人  
人  
人  
人

身家 | 山 | 身 | 京 | 所 | 宮 | 市 | 座 | 器 | 壺 | 孫 | 袖 | 内 | 族 | 目 | 類

花かやうな人々も名僧のハハの候松三人ハ  
 ありといひしあはし師といひ人々急も世に  
 ○源宗兼 人々しきうらまされし  
 法橋 人々しきうらまされし  
 同難 人々しきうらまされし  
 史本 人々しきうらまされし  
 ○源宗兼 人々しきうらまされし  
 史本 人々しきうらまされし  
 ○源宗兼 人々しきうらまされし  
 史本 人々しきうらまされし

一葉

紫花 一葉  
 目 ○今昔十九世  
 具 ○今昔十九世  
 湯 ナ一巻 入テ ○同 同  
 一葉 = 酒 一壺 入リ

一寺  
一袋

○同同同 壺ノ内母大ナル女サキ蛇一壺頭ヲ指上  
 ヲ蝨キ合タリ○同セ七世速一孫引列レテ○  
 同廿八十七平草ヲ一神ニ入テ持来タル也○同  
 一曰セ 物云ハハ一内響音テリ用エケル○同同セ  
 平草ノ限リ一旅篋ニ入タリ○源宿本流と  
 一月ノ間○同作舟 志トモハシクシテ作  
 ○大和物語 志トモハシクシテ作  
 中母リ○字部保國縁 志トモハシクシテ作  
 志トモハシクシテ作 志トモハシクシテ作  
 志トモハシクシテ作 志トモハシクシテ作

志

字部保國縁 志トモハシクシテ作  
 志トモハシクシテ作 志トモハシクシテ作  
 志トモハシクシテ作 志トモハシクシテ作

志免

和名比古或説云非  
 米非粥之義也  
 煮米多水者也○枕冊子  
 志免の  
 志免の  
 志免の

乞免あしを湯ももの海にたぬの

乞免 柳

源流 〇いぬく乞免〇

乞免 某

一一百合  
一一菅  
一一柳  
一一珠  
一一商  
一一壇

百一一百合〇百七乞免の乞免はるる〇振屋正  
一一柳〇四季物語七月乞免珠をてわらぬ  
くも〇建長八百首哥合衣笠 一一商 夫亦〇言  
記序の抄少地をぬぬる〇高松をのこる

て因 〇

乞 〇 枝。紙。イ。ハ。リ

志業集

〇 巻をすゝふまの心をもくく候甲は乞免先をり

三言

乞 〇 和

山家下七十

えけい 鬚 笔

拾遺雜春 えけいふをさるしよこの原初子えけい  
も 月と水とをえけい 月と水と。

えきり 歌の古きにえきり 昔歌 アコノカレハ 梓キセキ 耶  
百代後 仲実 耶  
おれおれえきり 何れあふふも 今もえきり 月と水と

○

えけい

和名

○ 讚岐日記 えきり

んえけい ぬ入てえけい ○ 大鏡ニ 山桶にらいてえけい 米

具 〇

えきり

源女 多も 〇 〇 〇 〇 〇 〇

べり ち かつ け ル ト 云 俗 語 ハ コ ノ 轉 ナリ 〇 同

曹 也

えきり 〇 同 角 徳

耶 美 の 山 桶 を

あや 〇 〇 〇 〇 〇 〇

免 也

コハ 俗ニ 云フ ツホリ ナテ シテ 心ノウ 〇  
子ニ モトキ 思フ 時イフ サマナリ 〇

えきり 直 黄

東方集上畧 山吹の花也 下畧  
花あれえんふくふくそあふ  
みまきもりの花のあひもれえんふくふくそあふ  
百代雜一

鳥名。鶺鴒又鶺鴒

枕舟子鳥ハ云々〇

丈夫寂蓮

仰光

云々

和名蔽髮 比大飛 蔽髮前為飾の新古雜下 右  
まじりしりしり時冷系院の右まの清さるひさし  
まじりしりしり時冷系院の右まの清さるひさし

某額

続世継 梅の本のともありあひひのかりしりしりしりの

まじりしりしり時冷系院の右まの清さるひさし

まじりしりしり時冷系院の右まの清さるひさし

和名假髮 スエ

アツ  
スエ  
スエ



玄の 所。コリトノト志カ又極殿カ

今物糖 〇玄の 母親 〇

玄の 由 人同

古今春上 〇玄の 母親 〇  
後撰 〇玄の 母親 〇

〇源 和素 賀

〇字 和素 賀 〇

玄の 母親 〇

玄の 母親

〇玄の 母親 〇

和名抄

〇拾遺 雜 玄 人 の 母 〇

〇玄の 母親 〇

〇

玄の 母親

源 和素 賀

〇玄の 母親 〇

い〜せて〜むか〜

い〜ふ

釋紀

○枕草子 月〜〜物 意〜の

〜〜の通證 十才の源 <sup>加賀</sup> 知兼 ○同日 即れあを  
い○同 野合 意〜の とい〜り あ〜ん。

い〜せ 障日

十六夜日記 や〜の 月〜〜  
月目 意〜ふ とい〜る 二〜〜  
い〜の 月〜ぬ ○月花 別

ヨマヤ子部

い〜せ 月〜の 月〜い。

い〜の 氷水

思修日記 意〜の 月〜ぬ 月〜ぬ  
い〜の 月〜ぬ ○源々記

い〜の

拾遺文外

い〜の 月〜ぬ 月〜ぬ 月〜ぬ  
○意〜の 月〜ぬ 月〜ぬ 月〜ぬ  
本木鏡中巻 推古 崇の 月〜ぬ 月〜ぬ

入



振替五

山景下七十

拾遺外六

拾遺外六

乞食

河海引千海草也

○宇都保 乞食の

乞食の  
海草の  
○落く保一乞食海草の  
○赤原桑田ゆりみか

ミロ

乞食の  
○宇都保

○中野保 乞食の

○庭訓往來曳干の  
秋成の磨干こ  
○海藻を

乞食

新古雜中定家 乞食の



根源

言(り)ひ(し)る

統世継(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)る

中(に)居(る)

言(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)る

○ 郡(の)つ(と)村(の)人(の)言(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)る

新(に)言(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)る

言(り)ひ(し)る

和(わ)名(な)拾(しゅう)玉(ぎよ)篇(へん)云(い)ふ

音(おと)零(ぜろ)一(いち)音(おと)冷(れい)漢(かん)

似(に)荆(けい)可(か)作(さ)染(せん)灰(はい)者(者)

也(なり)

言(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)るの(り)ひ(し)る

○

人

人

炬舎

和名杖助鋪弁色立成云助鋪

和名古夜一  
云此方岐夜  
如衛士

尾也

尾花...

君...

四回

...

〇祝母子...

正徳集

後拾雅三 上...  
...

雲井...

...

百代...

...

...

...

...

...

〇...



源清海を以て一々中の人にして  
よ。同様にその安んずるを以てして  
出立

まつりて 日次

志のむね上げ程に つとめと見せし 志とん。源清日  
つとめんとて一々。○紫花案月 志のつと  
めよとて一々。つとめ。○同 紫花案 志のつとめとて  
○同 清案着日 つとめとて くれ。○同 志のつとめ  
とて一々。多し。○

人中

源松風 志のつとめとて一々。多し。

志のつとめ

源玉子 四月の廿九日 志のつとめとて一々。多し。

志のつとめ 獨居

林業三

志のつとめ 友と志のつとめ 志のつとめとて一々。多し。

○

乞し... 人分

十六歳日記... 中畧人...  
一四十五回... 人...  
あ... 〇

乞のし... 大宅

紫苑 殿上花見  
み... 〇

乞もろ... 祚の神籬

垂仁紀熊神籬一具。和名杵日本紀お記云神籬俗  
北保  
散木  
一井の乞の神の乞もろ...  
振百

み... 〇  
三條大直大后... 大武集  
雪... 母神の...  
〇 詞書に神のおろ...  
て... 〇 為忠後百  
神条...  
首... 〇 清

楠集一首

又本雜十一

乞もろ



之

中書日記 其後大床子の云んりぬむむ 志すは伊勢  
いけけん二帖のうらまゝ〇

之れふー 平伏

深着 くらぬふて 乞事ゆも 同角紙 くらん  
つゆ くらぬふて 乞事ゆも 同角紙 くらん

之りふー

廣蓋 くらぬふて 園大磨川 くらん 又白重の日記に

一不祥尼の法局 くらん けりぬ 志の くらん けり  
くらぬふて 一領 くらん けりぬ 志の くらん けり  
中御基 園々の 延徳二年の 法會の 奉を志す  
くらん けりぬ 志の くらん けりぬ 志の くらん けりぬ  
云 卷結三十疋 紐布三十檀 紙百帖 扇五十本 積  
廣蓋 〇同 西 永久二年十二月一日 中畧 後  
藤九衛門尉 基園持 装束 細廣 〇盛衰記 十 号 徳  
降 談 破 金 千 兩 南 寮 百 所 劔 七 振 廣 蓋 三 入 テ 所 衣  
二十 領 具 ヲ レ リ 〇





ヒトナシ  
ヒトカタ

人形ヲ作ス

格送表揚 通信

○ 拾遺愚草上

○ 和名抄

○ 同十三

○ 和名抄

山家下

○ 山中の清和を

みり

玄祐

ヒコリ

短篇 奇明紀 ○ 宇部保 余便 日了 一

いん 玄祐のしきとくふん

か の玄祐のしきとくふん

玄の 氷様

仁徳記 六十二年 ○ 江次第一

新六 玄祐のしきとくふん

玄祐のしきとくふん

玄祐のしきとくふん

新六人志先後  
家内かくれあつちうしろたにあたまをかたあたまをかた

○

おのころりき

日之調方○万六長哥未人みりくみまのみつし  
あそられぬゆのあれさえ○ おのころりき日記の

おのころりき 美——

枕丹子おのころりき おのころりき おのころりき  
日記

六言

おのころりき

海人藻云元彼所代鳥羽已前ハ男眉の毛を  
ぬき鬚をおのころりきつおのころりき一切無之及  
未毎度矯飾の至之の梅窓筆記云 古代ハ鬚  
ヲツラサルノヤウニイエト源氏物語木  
おのころりき おのころりき おのころりき おのころりき

目録... 既ニ鬚ヲスルニヤ

乞

源家... 同格

... 同格

... 同格

... 同格

... 同格

乞

源... 同... 同...

同

和系...

...

...

乞

袖中可考

六帖



ゆきあけのしづかきつるふらさをぬれも

むしり

竹取抄上りの源美菜おろけのむしの葉あ  
まらぬともあつてもあきとむしりつる時  
あつりつるむしりあつてもあつりつる

むしりつるむしり日向講

古本今昔十九日りりかニテ日ナク講モセム

永正五年正月二日狂歌合

初七日向はるり日負之の神代之美やきつる

むしりつる 平板敷

甲斐日記時下のむしりつるむしりつる

七言

むしりつる 和光

拾遺草上  
むしりつるむしりつるむしりつるむしりつる  
日吉のたれは社  
百代神社 土御門院



同日 前大悟正足讚

拾玉三十一

十歌 崇徳御製  
みち乃れちりふえりやとけけ 沖もなほけとありてり  
○光子

あつみのあやう 見・ワタツ云

あつみのあやう 日よき くのあやう ちん玉と  
あつみのあやう 源美奈 ちん玉と  
あつみのあやう 源美奈 ちん玉と  
あつみのあやう 源美奈 ちん玉と  
あつみのあやう 源美奈 ちん玉と

あつみのあやう

新六 信実

○田氏十 兩夜有念詩抱膝殘燈前。

あつみのあやう

教本六 聖衆俱會衆

あつみのあやう

非常のあやう 死

あつみのあやう

ちしとあま

竹取中絶云 ちしとあまをそくむらひあまのうらみ子

梁惠王

ちのこをぬし

度のをし ちのこをぬし ちのこをぬし ちのこをぬし  
うきをししし

ちのこをぬし

源 浮舟 ちのこをぬし ちのこをぬし ちのこをぬし ちのこをぬし

々 近死地人命亦是 經文。摩耶經云 壁梅叱羅

飼牛至屠所 亦々 近死地人命亦是

干誦 諸 未修諸門

りしとあまのうらみ子 ちのこをぬし ちのこをぬし ちのこをぬし

○拾遺 愚心草 上 八十四 ○拾玉 三 廿 ○

ちのこをぬし

統詞 花 及 系 考 記

ちのこをぬし ちのこをぬし ちのこをぬし ちのこをぬし 油 解

○機 衣 四 考

たわぐまの ほう。 百歩之介

源 住くぬえうう 何れうう 海女 百歩之介 だれを  
くぬえううの 同 梅枝 くのえかの けくしん ぬえう  
うの 朱雀院の けくしん けくしん 公忠 朝臣の けくしん けくしん  
けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん  
あゆめ けくしん けくしん 同 白雲 百歩の けくしん けくしん  
けくしん けくしん 同 鐘 名 番 けくしん けくしん けくしん  
あゆめ けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん

ヒヤリマン  
百一乃遍

袂衣三下<sup>廿九</sup> けくしん けくしん 佛の けくしん けくしん けくしん  
けくしん 百一乃遍 けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん  
けくしん けくしん 百一乃遍の けくしん けくしん 同 ぬえう けくしん  
けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん  
けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん  
榎 經 月 けくしん けくしん 〇

えくくく女

源 常木

の 隆 信 集 亥 六 月 けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん けくしん

咳三國ヲヨ  
カ)

あはれ又は女もさうさうとまうさうさうさう

朝もれさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さう

みきさうさうさうさうさうさうさうさうさう

様もさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさう

又さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
又さう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

の古本今昔物語 十二世 同院九六公季若リシ

テ三位中将ト聞エケルニ 十卷 極テ風病ノ重

ク候ハハ 迨来 蒜ヲ食テナト。後拾誣諧云

テ云ヒテ 侍リ。人今ハ 可クヤクんと云ヒテ人の

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

皇太后陸奥

あはれあはれさうさうさうさうさうさうさう

○讀岐日記 清く和らげしれとて 言やしくとま  
らぬとて。

八言

百千万里

竹取百千万里の ありし 言 多し ともいふ こと  
しるはく。

百解の言

四季談 月 花 垣 百解の 言 多し の 言 多し 言

九言

言の言の言

可二 舎人 娘 子

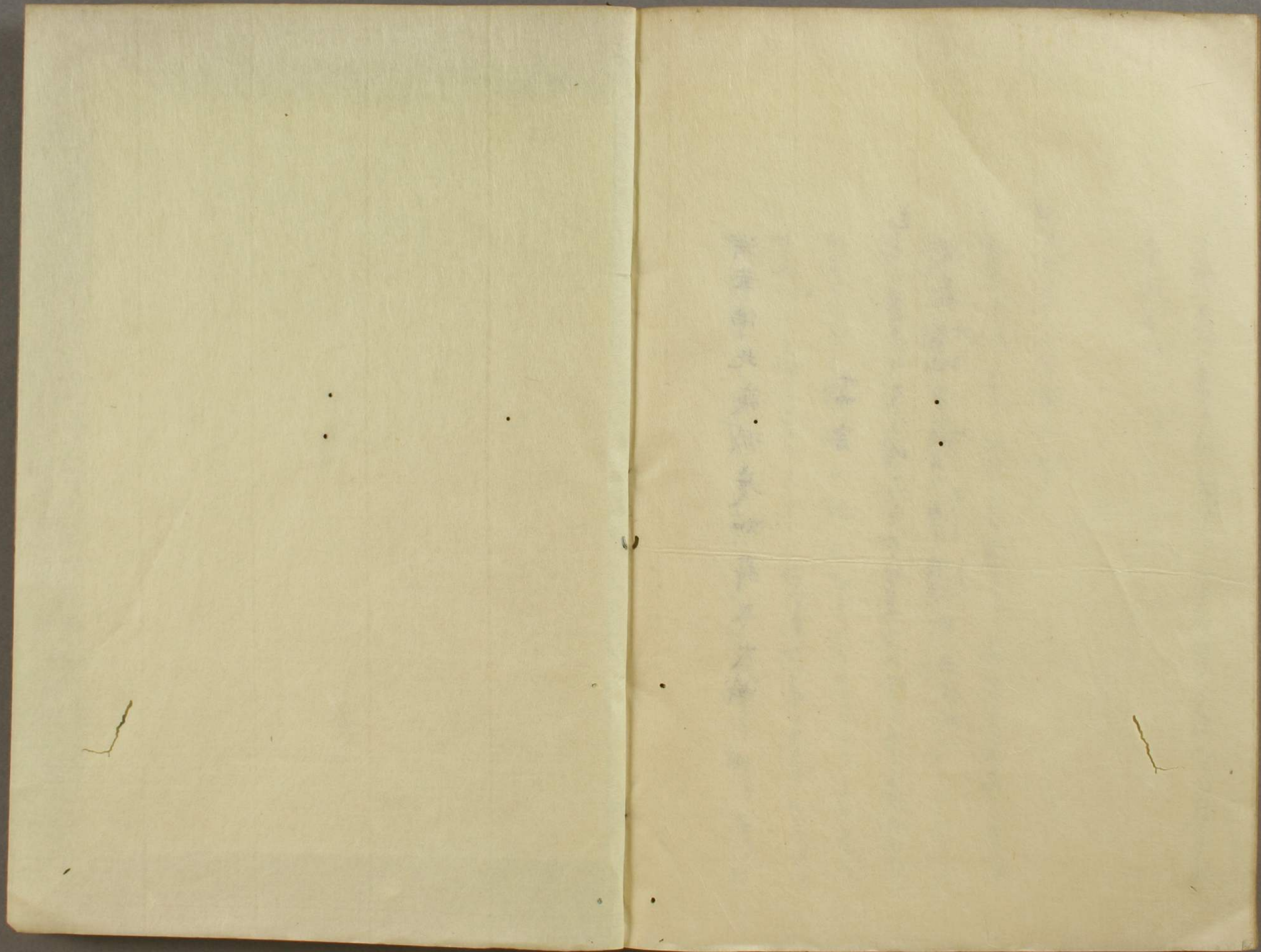
ありし 言の言の言 ありし 言の言の言 ありし 言の言の言  
色 景 和 難 抄  
新十謙 語  
ありし 言の言の言 ありし 言の言の言 ありし 言の言の言

○続哥林良枝上

十言

言の言の言の言の言の言の言の言の言の言





淡黄卷之六

七

